



偏西風

3年前の8月11日早朝、福岡県行橋市の行橋カトリック教会に大型貨物トラックが着いた。

大人用と子ども用の7人掛けの長いす24脚が次々と聖堂に運び込まれた。

偶然居合わせた信者は心あたりがなかった。だが、まるで教会が特注したかのように、サイズや色合いなど聖堂にぴったり。驚くばかりだった。

その1カ月前、山元眞神父(53)は1通の封書を受け取った。転勤生活で教会に在籍した信者からで、東京の消印があった。

「3年前、20年ぶりに

再訪するど、いすは折たたみ式のまま。高齢の信者には片づけなどが大変と思い、たまたま持っていた巻き尺でいすの長さを測った」とあり、知

人らの協力を得て周到に準備したことをわがわがせる内容だったといふ。

贈り物は数百万円相当とみられるが、聖書の「隠れた施し」の教え通り「右手でしたことは左手に知らせない」と名前を明かさなかった。山元神父も意

をくんで、搬入当日まで沈黙を通した。

クリスチャンでなくても、隠れた善行は「お天道様」がきつと見ていてくれると思っている。

(行橋・柴藤ハ之助)

右手でしたこと